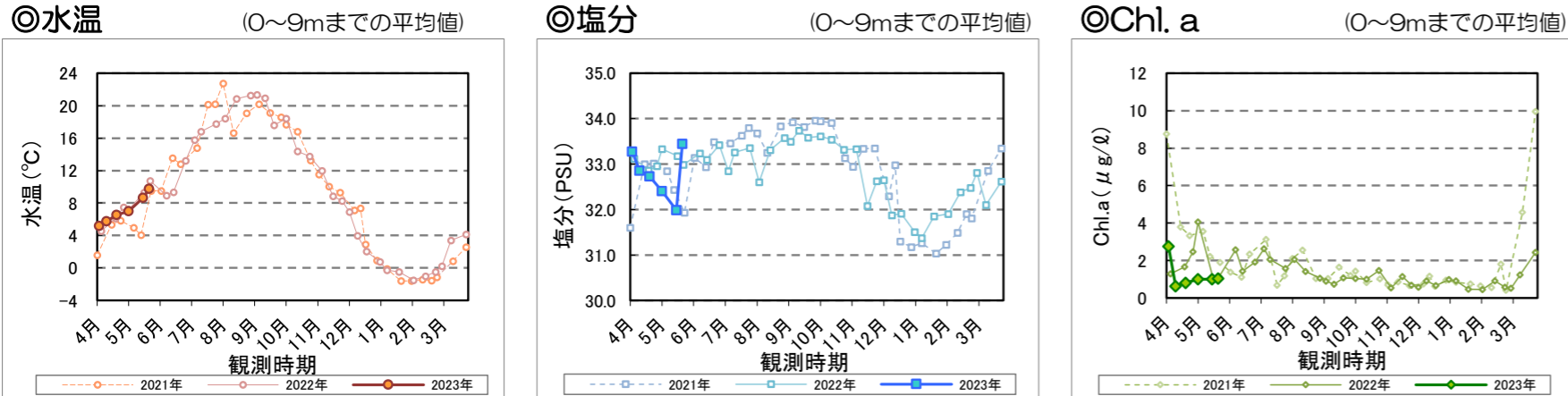
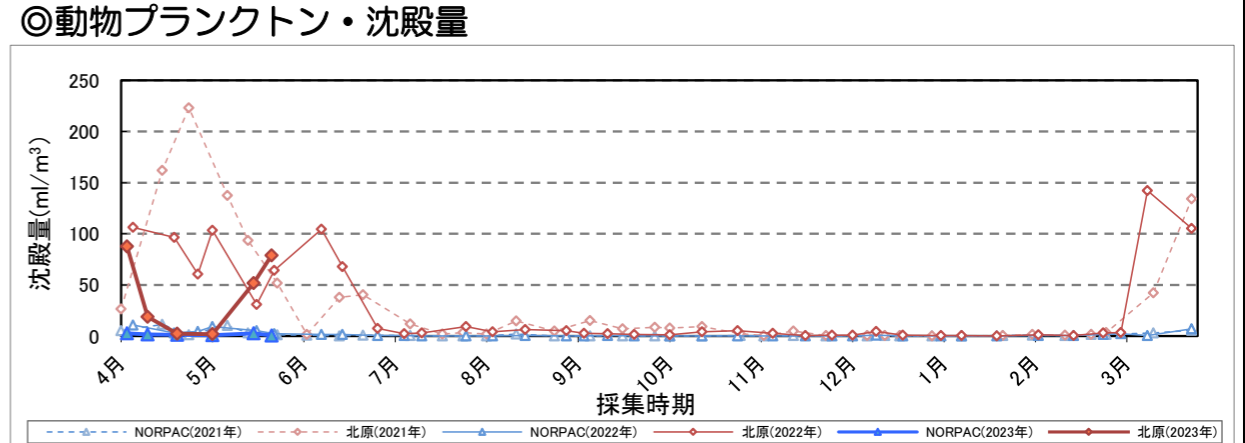


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2023年5月)

海洋環境データ



動物プランクトンデータ



概要

	5月2日	5月16日	5月22日
平均水温 (°C)	7.0	8.6	9.7
平均塩分 (PSU)	32.4	32.0	33.4
平均Chl.a (μg/l)	1.0	1.0	1.0
沈殿量 (ml/m ³)	(NORPACネット) 0.8 (北原式定量ネット) 1.8	(NORPACネット) 2.6 (北原式定量ネット) 51.7	(NORPACネット) 0.6 (北原式定量ネット) 78.8
主な出現種	<p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [+++] ◆ (イソ類: ユグド 加双・ユグカ) [冷水性] ◎<i>Eurytemora herdmanni</i> [+] ◆ (イソ類: ムナシ・ムナシ マ) [冷水性/汽水性] ◎<i>Tortanus discaudatus</i> [+] ◆ (イソ類: トルタン・デ イスカダ・カ) [汽水性] ◎<i>Oithona atlantica</i> [++] (イソ類: オイソ・アトランティカ) ◎<i>Harpacticus</i> sp. [+] (イソ類: ハルパクティス 属) <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎<i>Acartia longiremis</i> [+] ◆ (イソ類: アカルティス・ロングイレミス) [冷水性] ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [+++] ◆ (イソ類: ユグド 加双・ユグカ) [冷水性] ◎<i>Oithona atlantica</i> [+] (イソ類: オイソ・アトランティカ) ◎<i>Oithona similis</i> [++] (イソ類: オイソ・シミリス) ◎<i>Danielssenia</i> sp. [+] (イソ類: ダニエルセンシア 属) ◎Copepoda (nauplius) [+++] (イソ類のノブ 幼生) 	<p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [+] ◆ (イソ類: ユグド 加双・ユグカ) [冷水性] ◎<i>Rathkea octopunctata</i> [++++] ◆ (イソ類: ラシカ) [暖水性] ◎Gastropoda (larva) [+] (巻貝類の幼生) <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [+++] ◆ (イソ類: ユグド 加双・ユグカ) [冷水性] ◎<i>Oithona similis</i> [++] (イソ類: オイソ・シミリス) ◎<i>Triconia borealis</i> [+] ◆ (イソ類: トリコニア・ボレリス) [冷水性] ◎Copepoda (nauplius) [+++] (イソ類のノブ 幼生) ◎<i>Rathkea octopunctata</i> [+++] ◆ (イソ類: ラシカ) [暖水性] 	<p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [++] ◆ (イソ類: ユグド 加双・ユグカ) [冷水性] ◎<i>Eurytemora herdmanni</i> [+] ◆ (イソ類: ムナシ・ムナシ マ) [冷水性/汽水性] ◎<i>Oithona atlantica</i> [++] (イソ類: オイソ・アトランティカ) ◎<i>Rathkea octopunctata</i> [+] ◆ (イソ類: ラシカ) [暖水性] ◎<i>Obelia</i> sp. [+] (イソ類: オベリア 属) <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [+++] ◆ (イソ類: ユグド 加双・ユグカ) [冷水性] ◎<i>Oithona atlantica</i> [++] (イソ類: オイソ・アトランティカ) ◎<i>Oithona similis</i> [+++] (イソ類: オイソ・シミリス) ◎Copepoda (nauplius) [+++] (イソ類のノブ 幼生) ◎<i>Bivalvia</i> (larva) [++] (二枚貝類の幼生) ◎Gastropoda (larva) [++] (巻貝類の幼生) ◎<i>Podon leuckarti</i> [+] (枝角類: ポドン・レウカールティ) ◎Balanomorpha (nauplius) [+] (ワグ 類のノブ 幼生)
備考	(NORPACネット) 腐植質やや多い (北原式定量ネット) 腐植質やや多い	(NORPACネット) — (北原式定量ネット) 珪藻多い	(NORPACネット) — (北原式定量ネット) 珪藻かなり多い

出現量の多かった種類

- Pseudocalanus newmani* ◆ (イソ類: ユグド 加双・ユグカ) 体長: ♀0.9-1.5mm, ♂0.8-1.2mm. 冷水域に極めて普通に出現する。東北以北の沿岸では冬季層優占カイアシ類の1種となる。
- Gastropoda (larva) (巻貝類の幼生) 巻貝類の発生途中の幼生。幼生期はトロコフォア、ベリジャーの段階を経る。貝殻の重量とバランスをとるため、浮遊幼生は浮遊器官(面盤)を用いて水中を移動・浮遊するものが多い。
- Oithona atlantica* (イソ類: オイソ・アトランティカ) 体長: ♀1.1-1.4mm, ♂0.8mm. 太平洋、インド洋、大西洋の寒帯・亜寒帯に分布する。日本では太平洋・外洋で普通に出現する。
- Podon leuckarti* (枝角類: ポドン・レウカールティ) 体長: ♀0.5-0.9mm, ♂0.5-0.8mm. 日本では太平洋・日本海沿岸、瀬戸内海に分布する。
- Oithona similis* (イソ類: オイソ・シミリス) 体長: ♀0.7-1.0mm, ♂0.6-0.7mm. 各地の内海、沿岸、外洋で普通に出現する。日本各地の沿岸にみられる代表的な種類である。各大洋に多く分布するが、比較的冷水を好み、外洋より沿岸に多い。
- Balanomorpha (nauplius) (ワグ 類のノブ 幼生) フジツボ類の発生途中の幼生。フジツボ類はほとんどが雌雄同体で、卵の孵化後にノープリウス幼生、キプリス幼生の段階を経て固着生活に移る。
- Fritillaria borealis f. typica* ◆ (尾虫類: フリテリヤ 属) 体長: 1.4mm、尾は4.0mmまで、オホーツク海、親潮域に豊富に出現する。しばしば濃密な集群を形成する。
- Copepoda (nauplius) (イソ類のノブ 幼生) カイアシ類の発生途中の幼生。殻皮を繰り返してノープリウス幼生、コペポダイト幼生の段階を経て成体になる。海産魚類の仔魚生類には、餌としてのカイアシ類のノープリウス幼生密度が決定的といわれている。

※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl.aのグラフは、水深0~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl.a欄の数値は、表示の都合上、水深0~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”はサンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである[+]出現、[++]やや多い、[+++]多い、[++++]かなり多い、[+++++]極めて多い。

※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(◆冷水性種、◆暖水性種、◆汽水性種)。

※今月のサンプルには珪藻類(植物プランクトンの仲間)、腐植質(主に枯死・分解した植物由来の物質)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。

※参考文献：
 ※①千原・村野(1997) 日本産海洋プランクトン検索図説[東海大学出版会] / ②山路(1966) 日本産海洋プランクトン図鑑[保育社] / ③岩国市立ミクロ生物館 監修(2011) 日本の海産プランクトン図鑑[共立出版]
 ④Wilson, M. S. (1966) North American Harpacticoid copepods. 8: The *Danielssenia sibirica* group, with description of *D. stefanssoni* Willey from Alaska. *Pac. Sci.* **20** (4), 435-444.
 ⑤Pinchuk, A. I. & Hopcroft, R. R. (2006) Egg production and early development of *Thysanoessa inermis* and *Euphausia pacifica* (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.* **332**, 206-215.
 ⑥林(2006) 水産無脊椎動物学入門[恒星社厚生閣] / ⑦Ohtsuka, S., Itoh, H. & Mizushima, T. (2005) A new species of the calanoid copepod genus *Centropages* (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? *Plankton Biol. Ecol.* **52** (2), 92-99.
 ⑧西・加藤(2002) 日本産カムリゴカイ科多毛類の分類について. *タクサ*. **13**, 5-17. / ⑨今島(1996) 環形動物 多毛類[生物研究社] / ⑩日本プランクトン学会 監修(2011) すかみ プランクトン[技術評論社] / ⑪水島・鳥澤 監修(2003) 漁業生物図鑑 新北のさかなたち[北海道新聞社]
 ⑫古賀(1960) *Centropages abdominalis* SATOのノープリウス幼生. *日本水産学会誌*. **26** (9), 877-881. / ⑬伊藤・水島・久保田(2005) 駿河湾三保沖におけるカラヌス目カイアシ類の季節的消長. *東海大学紀要海洋学部*. **3** (1), 19-35.
 ⑭大越・野村(1990) 穿孔性多毛類*Polydora*属による北海道地方、東北地方沿岸のホタテ貝浸食状況. *日本水産学会誌*. **56** (10), 1593-1598. / ⑮葦水・久保田・平野・リンズィー(2015) 日本クラゲ大図鑑[平凡社] / ⑯奥谷(2017) 日本近海産貝類図鑑【第二版】[東海大学出版部]
 ⑰大塚・上田・岩淵・伊東・徐・坂口・平野・木村・上野(2007) 移入種か、在来種か? : 清水港から記載された浮遊性カイアシ類の1種の導入の可能性を検証する. *日本プランクトン学会報*. **54** (1), 30-38.